

# 鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会(電話 099-222-7770)

## 年頭にあたり!

会長 北 哲郎



平成21年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、私どもの目標としております「武の国薩摩の復活」に向けて、皆様方の御指導と御協力によりかなりの成果が上がり、復活の兆しが見えてきたと確信しております。

また、御存知のとおり老朽化した県柔道会館のリフォームと柔道畳の総入れ替えが終了し清々しい新年を迎えることが出来ました。

昨年の北京オリンピックでは、柔道の勝敗は別にして、競技内容に柔道の基本である礼法と基本姿勢の自然体が無くなり、くずし、つくり、かけの基本動作が全く見られない。そのうえ、組まない、組ませない、レスリングスタイルの「つ」の字に曲がった姿勢からの足取りなどが多く見られました。その結果柔道が、国際化、競技化、スポーツ化され、柔道本来の魅力が無くなったなどの批判が、あちら此方で聞かれました。私自身これらにどのように対応したら良いものかと危惧した1年でもありました。

このような意見を踏まえ、私どものこれからの柔道指導は、講道館柔道の創始者嘉納治五郎師範の目指したものは「人間教育としての柔道」であり、いわゆる「人づくり」を迫る指導が必要であると思えます。

鹿児島県柔道会の本年の課題は、

- ① 寄附行為を定款へ改訂する。
  - ② 市町村合併に伴う支部役員の編成。
- 私の今年の基本方針は、昨年と同様に
- ① 嘉納治五郎師範の理想とする「柔道を通じた人づくり」・「人間教育としての柔道」を目指す。
  - ② 「武の国薩摩」復活を目指した競技力の向上

この2点を今年の最重点課題として、鹿児島県柔道会一丸となって、取り組んで参る所存であります。

最後に、皆様方の御健勝と御多幸を祈念申しあげ新年の挨拶といたします。

## 県柔道会稽古納め

12月27日(土) 県柔道会館

恒例の稽古納めが、27日(土)県柔道会館で行われた。北 哲郎会長の冒頭の訓示で「今年は、全ての行事が、皆様方の御指導・御支援・御協力のもとに無事終了し、かなりの成果を上げることができたと確信し感謝している。その中でも、全九州高校総体柔道競技団体で初優勝した甲陵高等学校の活躍を皮切りに、8月の全国高校総体柔道競技団体で、鹿児島南高等学校女子が初の団体3位入賞。9月下旬の大分国体では、鹿児島県少年女子が、初めての準優勝と素晴らしい活躍をして、私たち鹿児島県の柔道関係者に大きな夢と希望を与えてくれた。この好成績は、「武の国薩摩」の復活を目指している私にとっても、大きな力になった。

最後に、今日は一年を締めくくる稽古納めであるので、稽古で汗を流し、来年もまた素晴らしい年にして欲しい。」と述べた。

その後、取：中菌雅博六段(県警機動隊)、受：上田平剛三段(県警機動隊)による「固の形」が披露され、中菌雅博六段(県警機動隊)の指揮で乱取りを行った。

柔道会の役員、県警機動隊員、大学生、高校生など約30人が参加した。

## 県柔道会稽古始め

1月10日(土) 県柔道会館

県柔道会の稽古始めが、1月10日(土) 県柔道会館で、110人が参加して行われた。

北 哲郎会長は、訓示の中で、私は今年も基本方針として、① 嘉納治五郎師範の理想とする「柔道を通じた人づくり」、 「人間教育としての柔道」を目指す。② 「武の国薩摩」復活を目指した競技力向上。この2点を最重点課題として掲げ、県柔道会で一丸となって取り組みたいという所信表明があった。

その後、取：山野修四段(加治木中教)、受：西小野智広三段(舞鶴中教)による「投げの形」が披露され、中菌雅博六段(県警機動隊)の指揮で、乱取稽古に汗を流した。

その後、恒例の鏡開きがあり、準備された「ぜんざい」を2杯・3杯とお代わりしながら楽しく食べ、今年の稽古始めを終了した。

(支部日より 6)

## 「柔道人口の減少を危惧」

南薩支部長 矢野 希

### 1 南薩地区柔道会の歩みと現状

枕崎市を中心とする近隣の市町村柔道関係者により、昭和28年枕崎市の発足と同時に枕崎市に柔道場(順道館)が完成。柔道場には、「南薩地区柔道本部」の看板が掲げられ、南薩地区柔道の元締めとなった。

「南薩地区柔道本部」の発足により、青年層の有段者をはじめ、高校生・中学生それに小学生が柔道場に通いはじめ、柔道場は、溢れんばかりの盛況を呈した。近隣の市町村の柔道場にも柔道で鍛錬する高校生や中学生の姿が見られるようになり、次第に柔道人口も増加していった。

一生懸命柔道に打ち込む姿勢が社会的にも柔道に対するの評価が高まり、高校生の柔道大会も開催されるようになった。

また、順道館道場は、夏季の合宿や強化練習場としても盛んに活用されるようになり、優秀な柔道選手を数多く輩出した。

なおまた、柔道組織も強化され、多くの市民の好評を得ると共にその存在が高く評価されるようになった。

しかし、時代の進展と共に各地域とも過疎高齢化、更には、近年少子化現象が進み、市町村合併後は、将来的には集落統合等まで検討されるようになった今日、南薩地区柔道会(枕崎市、南さつま市、南九州市)の役員・指導者が協力して柔道人口の増加を図る努力をしているが、我々だけでは果たし得ない問題もあるようだ。その一つは、近年スポーツ少年団の活動が盛んな野球・ソフトボール・サッカーは、人気が高く入部する部員数も多い。それに比べて、柔道はあまり人気が無いのか、柔道スポーツ少年団に入部する部員数は、減少傾向にあり、その延長線上にある中学校や高等学校の柔道部は、部員の確保やチーム編成に苦慮している現状にある。

### 2 柔道人口を増やすには

柔道人口を増やすには、柔道人口の底辺の拡大を図ることが必要だと思う。

① 柔道は、運動量の多いスポーツであるが、その内容においても価値が高く、特に、筋力と内臓機能の著しい発達を促すスポーツであるということを指導者が認識しておくことが大切である。この面から見て柔道は、小・中学生にとって最も適したスポーツであるが、身体的発達の個人差が著しい時期であり、精神的にも不安定な時期であるので、それぞれの個々の内面や個人差をよく理解し、安全面への配慮を第一にすることが指導者にとって一番大切であると思う。このことによって、保護者も少年たちも安心して柔道の鍛錬に取り組むことができます。

② 少年たちに「自分は、柔道で鍛錬している。」という誇りを持たせるために、小学生を対象とした「昇級試験」の実施。

その「昇級試験」は、支部ごとに実施するのでなく、県柔道会で統一した全県下の

「昇級試験」の実施です。早期の「昇級試験」実施を要望するものです。

- ③ 厳しい指導の中にも温情のある対応が必要である。
- ④ 少年柔道の指導には、柔道指導者の育成が大切である。特に、中学校での柔道必修には、柔道有段者の保健体育科教員の配置が必要である。(小・中学校のとき、柔道クラブの一員として活動していたが、中・高等学校に入学したとき、その学校に柔道部が無く柔道修行の道が中断された。) 2については、私の意見を述べてみましたが、柔道人口の増加のための一助になれば幸いです。

## 「志布志柔道スポーツ少年団

### の歩みと現況」

志布志柔道スポーツ少年団 花堂 信隆

#### 1 歴史

志布志柔道スポーツ少年団の前身は、昭和20年代に志布志警察署と地域の公民館等を利用して、柔道好きの子供たち(小学生から中学・高校生)それに一般の人たちが集まって始められたのが最初だと聞いております。

その間、多くの先生方の熱心な指導により、団員の中から優秀な選手・指導者もたくさん輩出しました。

稽古をしている志布志武道館柔道場は、15年前に立派な道場を造ってもらい、子供たちや指導者も一段と元気が出て柔道に邁進しています。

#### 2 理念と目標

柔道を通して、指導者・育成会・団員が親睦を図り、・礼儀正しく・規則を守る・協力する・感謝の気持を持つことを理念として、少年団運営に取り組んでいます。また、少年団柔道の全国大会出場という大きな目標を持って、厳しくて楽しい練習に取り組んでいくことで、それぞれが実を結び、県代表として全国大会にも幾度か参加させていただきました。それが指導者と団員に素晴らしい経験と思い出をつくり、大

きな力となって、志布市柔道スポーツ少年団を成長させています。

#### 3 現況と今後のあり方について

現在、練習日は、火曜日・木曜日・土曜日の週に3日。火曜日と木曜日は、低学年(3年生以下)が、午後6時から8時までで、高学年と中学生が、9時まで。土曜日は、午後2時から5時までやっています。この他に、一月に1~2回、他の少年団や柔道場との交流を兼ねて合同練習を行なっています。

お釈迦祭り志布志柔道大会など年2回の志布志の柔道大会を始めとして、県柔道大会や各地域の柔道大会にも参加するように育成会と力を合わせ一丸となって頑張っています。

以前は、40~50人いた団員も、3~4年前から減少が進んでおり、現在、小学生が15人で大会等に参加することに苦慮しているのが現況です。

団員を増やすための募集方法等について学校や各団体そしてよその道場や少年団の先生方にいろいろと知恵を頂きながら、志布志柔道会・育成会が、一緒になって団員募集に力を注いでおります。

最後になりますが、志布志柔道スポーツ少年団は、「精力善用」・「自他共栄」の柔道精神・理念を前面に掲げ、それぞれの子供たちに応じた指導をしていくことによって、少年団の発展を目指し、より一層の努力と精進をしたいと思います。

今後とも、県柔道会をはじめとして、関係各位の皆様の御指導をよろしく願います。

【巻頭言】(月刊「柔道」2月号に掲載)

### 北京オリンピック(テレビ)観戦記

県柔道会長 北 哲郎

はじめに

柔道競技が終了して間もなく、多くの柔道ファンから、率直な意見や様々な質問をいただいた。

・「柔道が随分変わりましたね。まるで、柔道衣を着たレスリングじゃないですか。」

- ・「礼儀・礼節は、あれで良いのですか。」
- ・「背中について転んだだけで一本ですか。」
- ・「勝者が、派手なガッツポーズを取っているじゃないですか。」
- ・「柔道の技は、柔道衣を掴んで掛けるものでしょう。」
- ・「審判員に対する日本の指導の役割は、どうなっているのですか。」
- ・「国際柔道連盟から離れ、日本柔道(武道)を守った方が良いのではないですか。」
- ・「本来の柔道精神・柔道技術に戻せないのですか。」

等々、百家争鳴の観を呈し、その対応には困惑するほどだった。地元の南日本新聞社にもたくさんの投書が寄せられ、その一部が南日本新聞の「よろん欄」で紹介された。

私自身も、メダル数や勝敗にこだわる社会の風潮に疑問を感じていたので、私の考えを役員会に提起し、皆で意見を出しあい、今後の柔道の課題について一定の理解と合意を得たので、それらを取りまとめ、地方から発信します。

北京オリンピックの感想と今後の課題

- 1 勝利した選手が、ガッツポーズなどを繰り返し、なかなか開始線に戻らない。審判員に何度も促されようやく礼をしたかと思ったら、会場内で柔道衣を脱いで喜びを表そうとする姿が見られた。また、日本代表選手に相応しくないガッツポーズ・顎髭等が見られ不快感を覚えた。

メディアを通じ家庭の茶の間まで、それらの光景は映し出される。これらのことは、現在展開中の「柔道ルネッサンス活動」に大きな影響を与え、「柔道ルネッサンス活動」を推進中の現場では、矛盾を感じ困惑もしている。

鹿児島県柔道会では、次の武道の礼法(心)を浸透させるべく鋭意努力している。

わが国の武道における「礼は」、スポーツにおける行動の仕方とは異なるとらえ方がある。

武道では、試合などにおける激しい攻防の後、まだ心理的な興奮が静まっていないときでも、その興奮を抑えて、正しい形で

丁寧な礼を行なうことが求められる。

礼を重んじ、その形式に従うことは、自己を制御するとともに相手を尊重する態度を形にあらわすことであり、その自己制御が人間形成にとって重要な要素であると考えられているのである。

文部省(柔道指導の手引き)

- 2 アテネオリンピックにおける「一本を取る」日本の柔道は、日本の国民ばかりでなく世界の柔道ファンに、柔道の素晴らしさと大きな感動を与えた。  
ところが、今回の北京オリンピックで日本の選手は、重圧におしつぶされたのであろうか、持っている力が十分に発揮されないで、「足取り」で一本負けする選手が目立った。指導者や選手は、海外遠征や国際大会を重ね、国際JUDOの動きを十分・研究していたであろうにと残念であった。
- 3 テレビ解説で思ったことは、試合の攻防をじっくりと観たいのだから、ラジオ実況並みで耳障りな面が多々あった。審判の判定についてまで、批判をする必要はないのではないか。一考を要する点である。
- 4 メダル受賞者の言葉の中に、師匠・監督への感謝・自分のためにがんばった、親としての仕事など身近なことへの発言が目立った。もっと、日本を代表している柔道選手としての自覚、責任感、誇り、感謝の言葉が欲しかった。また、表彰式で日本の国歌が流れているときの姿勢についても、決して良いとは言えない所も見受けられた。思い過ぎだろうか。
- 5 日本柔道の今後の最大の課題は、柔道人口を増やすことだが、オリンピックの強化対策としては、長期的な計画で、小・中学生を発掘して、専任コーチをつけて長期に育成していくことである。
- 6 アテネオリンピックに比べ、柔道の競技や審判技術に見劣りを感じたが、国際柔道連盟(IJF)に日本の代表理事がいなくなったことも一因だと考えられる。  
正しい柔道の発展のためには、何としても教育コーチング理事の復活を果たさなければならない。

## 7 むすび

今や柔道は、世界に普及発展し、技術面ばかりがクローズアップされ、勝負に勝つことのみには価値が求められているように感じられてならない。

嘉納治五郎師範の柔道の魅力は、「一本で決める」という気概と技の冴えでありそれに勝っても驕らず、負けても挫けず、常に相手を尊重し、敬意を表す礼法があることだと思ふ。

我々柔道指導者は、嘉納治五郎師範の「人間教育」を目的とした柔道の原点に立ち返り、柔道の普及発展に寄与する責任と使命があることを忘れてはならない。

## 各種大会の成績(10月～1月)

## ・県高等学校新人柔道大会

10月22日(水)・23日(木)

鹿児島メインアリーナ

## 団体戦(男子)

- 1位 甲陵高等学校
- 2位 鹿児島商業高等学校
- 3位 鹿児島工業高等学校
- 4位 鹿児島情報高等学校

## 団体戦(女子)

- 1位 鹿児島南高等学校
- 2位 鳳凰高等学校
- 3位 出水中央高等学校
- 4位 中種子高等学校

## 個人戦(男子)

- 60kg級
- 1位 藤山 成斗(鹿児島情報高等学校)
  - 2位 前田 武(加治木高等学校)
- 66kg級
- 1位 白川 真人(甲陵高等学校)
  - 2位 田中 光(鹿児島商業高等学校)
- 73kg級
- 1位 池田宏次郎(甲陵高等学校)
  - 2位 東井上知貴(鹿児島情報高等学校)
- 81kg級
- 1位 山田 泰裕(甲陵高等学校)
  - 2位 地藏 拓郎(鹿児島工業高等学校)
- 90kg級

- 1位 末永 良太(甲陵高等学校)
  - 2位 富山 大介(鹿児島工業高等学校)
- 100kg級
- 1位 大王 光貴(鹿児島商業高等学校)
  - 2位 瀬戸上稔紀(鹿児島工業高等学校)
- 100kg超級
- 1位 土屋 潤(鹿児島商業高等学校)
  - 2位 北園 拓也(鹿児島実業高等学校)
- 個人戦(女子)

- 48kg級
- 1位 井之上愛海(鹿児島南高等学校)
  - 2位 児玉 千春(鹿児島南高等学校)
- 52kg級
- 1位 鮫島佑梨子(鹿児島南高等学校)
  - 2位 西村和華子(鹿児島南高等学校)
- 57kg級
- 1位 富濱 綾香(鹿児島南高等学校)
  - 2位 大町田 光(中種子高等学校)
- 63kg級
- 1位 古賀ちなつ(鹿児島南高等学校)
  - 2位 長野希美(鳳凰高等学校)
- 70kg級
- 1位 稲森美咲(鹿児島南高等学校)
  - 2位 小原 希実(鳳凰高等学校)
- 78kg級
- 1位 岡村 桃子(鳳凰高等学校)
  - 2位 吉時 恵(鹿児島南高等学校)
- 78kg超級
- 1位 豊永 祥子(鹿児島南高等学校)
  - 2位 蔵菌めぐみ(鹿児島南高等学校)

## ・県少年柔道大会

11月16日(日) 県体育センター武道館

## 団体戦

- 1位 双葉柔道スポーツ少年団
- 2位 米倉柔道館
- 3位 青雲柔道クラブ
- 3位 かわなべ柔道スポーツ少年団

## ・九州高等学校新人柔道大会

11月22日(土)・23日(日)

九電記念体育館(福岡市)

## 団体戦

- 鹿商(男子)・鹿南(女子) 8強

**個人戦(男子)**

60kg級

3位 藤山 成斗(鹿児島情報高等学校)

73kg級

1位 池田宏次郎(甲陵高等学校)

81kg級

3位 山田 泰裕(甲陵高等学校)

100kg級

3位 大王 光貴(鹿児島商業高等学校)

100kg超級

1位 土屋 潤(鹿児島商業高等学校)

**個人戦(女子)**

63kg級

2位 古賀ちなつ(鹿児島南高等学校)

**・県スポーツ少年団競技別交歓大会**

12月23日(日) 県武道館柔道場

**団体戦**

1位 宇検柔道スポーツ少年団

2位 末吉柔道スポーツ少年団

3位 山川武道館柔道スポーツ少年団

3位 双葉柔道スポーツ少年団

**・県高等学校柔道選手権大会**

1月24日(土)・25日(日)

鹿児島アリーナ武道場

**鹿商が7年ぶり優勝、鹿南は4連覇**

**団体戦(男子)**

1位 鹿児島商業高等学校

2位 甲陵高等学校

3位 鹿児島工業高等学校

3位 鹿児島情報高等学校

**団体戦(女子)**

1位 鹿児島南高等学校

2位 鳳凰高等学校

3位 鹿屋高等学校

3位 中種子高等学校

**個人戦(男子)**

60kg級

1位 福山 亮(鹿児島商業高等学校)

2位 田中 光(鹿児島商業高等学校)

73kg級

1位 池田宏次郎(甲陵高等学校)

2位 東井上知貴(鹿児島情報高等学校)

90kg級

1位 山田 泰裕(甲陵高等学校)

2位 末永 良太(甲陵高等学校)

100kg級

1位 大王 光貴(鹿児島商業高等学校)

2位 山平 隆太(甲陵高等学校)

100kg超級

1位 土屋 潤(鹿児島商業高等学校)

2位 溝口 恵祐(鹿児島工業高等学校)

**個人戦(女子)**

52kg級

1位 鮫島佑梨子(鹿児島南高等学校)

2位 安由里子(中種子高等学校)

70kg級

1位 小原 希実(鳳凰高等学校)

2位 長野 希美(鳳凰高等学校)

70kg超級

1位 岡村 桃子(鳳凰高等学校)

2位 豊永 祥子(鹿児島南高等学校)

**・鹿児島県柔道選手権大会**

**・女子柔道選手権大会**

1月31日(土) 鹿児島アリーナ武道場

(男子)

(女子)

1位 青木 和明

1位 濱田 尚里

2位 帖佐 大輔

2位 東馬場とも子

3位 堂前 賢吾

3位 松本 光

4位 中山 博登

5位 田代 竜二

※ 男子は、4位まで、女子は、2位まで、3月の九州選手権大会に出場する。

**主な行事予定(2月～5月)**

2月15日(日) 県下中学校新人柔道大会

2月22日(日) 県下少年新人柔道大会

4月18日(土) 県柔道会定期総会

5月14・15日 県柔道指導者講習会

5月20・21日 県高等学校柔道競技大会

【編集後記】各支部で柔道人口の減少が危惧されています。地域の子供たちに柔道の良さを教え、一人でも多くの子供たちに柔道を体験させて、立派な柔道マンを育てましょう。